

目次

ご挨拶	P.2
開催概要	P.4
主催者概要	P.5
協力・協賛企業、事業者一覧	P.6
会場のご案内	P.7
プログラム・タイムスケジュール	P.9
構成劇	P.11
シンポジウム	P.17
演題発表	
『親族に頼れない時代 どうする老後！？～地域と共に考えた老いじたく講座の報告～』 高齢者総合センター在宅介護地域包括支援センター	P.21
『難病の高齢者と共につくる楽しい武蔵野ライフ～人工呼吸器で吸引も必要なALSの方、ヘルパー育成と多職種連携でどこまでも行く！～』 NPO グレースケア	P.22
『「食べる」を支える～本人と家族の想いに寄り添う食の支援～』 桜堤看護ステーションみゆうちゅある	P.23
『在宅復帰への取り組み～緊急入居依頼に対する即日対応～』 シルバーシティ武蔵野	P.24
『訪問栄養相談の取り組みについて～「食」「栄養」の切り口から患者様・ご家族のお困りごとに応えたい～』 ファミリーケアクリニック吉祥寺	P.25
『「チームワークの向上」が果たす生産性向上への効果～誰もが実践可能！ICT、ロボット導入以前に取組める生産性向上～』 デイサービスセンターとらいふ武蔵野	P.26
『居宅介護支援事業所における生産性向上の取り組み～取り組みを通して職員の絆を育み、ワークエンゲージメントを高める～』 稲垣薬局介護サービス	P.27
『地域に根付いた訪問診療を進めるための多職種連携の成果と課題』 わかさクリニック三鷹	P.28
『バリアフリーガーデン「とらいふあーむ」で多主体の新たな交流～コロナ禍が生んだ、新しくも懐かしいまちぐるみの支え合い～』 特別養護老人ホームとらいふ武蔵野 クリーンむさしのを推進する会	P.29
『おうち訪問薬剤サービスの取り組みについて～まんまる薬局独自採用「ポランチ制度」とは～』 まんまる薬局	P.30
『事故を起こさない為の取り組み～大好きなお風呂に安心安全に提供したい～』 三祐産業介護福祉部	P.31
『誰一人取り残さない地域を武蔵野から～立ち直りを支える地域ネットワークづくり～』 三鷹武蔵野社会福祉士会立ち直り支部	P.32
『「すこやか朝活」の社会的効果～誰もがWell-Being「しあわせと健康」を実感できるシンプルで持続可能な朝活動～』 STAY訪問看護ステーション、ゆとりえ在宅介護・地域包括支援センター、ファミリーケアクリニック吉祥寺	P.33
スタンプラリー、介護職・看護職へのメッセージツリー	P.34
出展・展示コーナー	
ケアマネジャーって何をやるの？ケアマネの仕事紹介・体験/次世代介護機器の体験展示会	P.37
サンキュー動画の上映/演題発表 ポスターセッション	P.38
食べてためせる介護食コーナー/あなたの血管年齢は何歳？健康チェック	P.39
介護川柳の展示/福祉用具展示	P.40
キラキラ介護美容・ネイル/骨格タイプ別分析	P.41
キッズヘルパー！子ども介護職体験	P.42
武蔵野市事業者連絡会紹介	
武蔵野市居宅介護支援事業者連絡協議会	P.44
武蔵野市訪問介護事業者連絡会議	P.44
武蔵野市訪問看護・訪問リハビリテーション事業者連絡会議	P.45
武蔵野市通所介護・通所リハビリテーション事業者連絡会議	P.45
武蔵野市介護老人福祉施設長会	P.46
武蔵野市PT・OT・ST協議会	P.46
福祉用具事業者連絡会議	P.47
ケアリンピック武蔵野のあゆみ	P.48



ケアオリンピック武蔵野2024 市長挨拶



武蔵野市長
小美濃 安弘

日頃より、武蔵野市の高齢者福祉施策ならびに介護保険施策にご理解とご協力をいただき、心から御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症は5類に移行いたしました。まだまだ予断を許さない状況は続いているものと認識しております。感染すると重症化のリスクが高い高齢者と接する皆様におかれましては、感染対策の徹底や、さまざまな制限を求められる環境が続いたことと存じます。ケアの現場を支える皆様一人ひとりの日々の努力によって守られてきた生活や笑顔がたくさんあります。改めて、これまでの取組みに深く敬意を表します。

さて、高齢者人口がピークを迎えるといわれる2040年に向けて、地域包括ケアシステムの推進・強化が求められています。そのような中、本年度は「武蔵野市第六期長期計画・調整計画」「第4期健康福祉総合計画」「高齢者福祉計画・第9期介護保険事業計画」の実施初年度でございます。これらの計画の中でも、介護人材の確保については特に大きな課題と捉えております。市では市内の介護事業所へ就職し、やりがいをもって働き続けていただけるようこのケアオリンピック武蔵野をはじめ、「介護職・看護職Reスタート支援金事業」や「介護人材確保・定着支援金支給事業」などの支援も行っています。

本日のケアオリンピック武蔵野にお越しの皆様、WEBを通じてご覧いただいている皆様におかれましては、武蔵野市の介護・看護を最前線で支えていただいている事業所の取組みや新たな技術などに触れ、互いに研鑽しながら、今後も武蔵野市の介護・看護の向上に多大なるご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

開催に向け、ご多忙な中、準備を進めていただいた実行委員会の皆様や、協力・協賛いただいた関係各機関、事業者等の皆様に心から感謝申し上げますとともに、この『ケアオリンピック武蔵野2024』が、本市における「まちぐるみの支え合いの仕組みづくり」推進の一助となることを、大いに期待しております。

ケアリンピック武蔵野2024 開催にあたって



ケアリンピック武蔵野2024実行委員会 委員長
浅野 彰

ケアリンピック武蔵野は2015年に始まり、今年で9回目になります。

新型コロナウイルス感染症の影響は残っていますが今年は市民の方々や各専門職の方々にご来場いただきコロナ禍の中で人々がどのような取り組みを行い それぞれが役割を担い これからも支えあっていくのかをお考えいただければと思います。

9月までの5回の実行委員会で委員から非常に活発な意見がでてプログラムも早めに完成しました。

今年は2017年以来、7年ぶりに医療と介護に携わる人たちが参加する構成劇を上演しその内容をもとにシンポジウムを開催します。市民の方々向けのプログラムも多数あり参加する私自身も楽しみにしています。

ケアリンピック武蔵野は「広げよう！まちぐるみの支え合い」を合言葉に毎年、演題発表等で様々な提案問題提起を行ってきました。昨年の様子は武蔵野市のホームページで閲覧でき資料的な価値もあります。

最後に今年も参加していただきました杏林大学、学術関係者の皆様、学生ボランティアの皆様 ケアリンピック武蔵野の実行委員 各事業者連絡会の皆様 協力・協賛企業の皆様 武蔵野市健康福祉部の皆様に厚く御礼申し上げます。



開催概要

■名 称：ケアリンピック武蔵野2024
■目 的：永年介護現場で市民生活を支え続けた介護・看護職員等が、武蔵野市の地域としての目標に沿った先進的な取組みを紹介し、互いに研鑽し、称賛する場としてケアリンピック武蔵野2024を開催します。武蔵野市版地域包括ケアシステム「まちぐるみの支え合いの仕組みづくり」に向けて、介護や看護に従事する方たちが誇りとやりがいをもって働きつづけられることや、人材確保・育成の推進に寄与することを目的とします。

■日 時：令和6年11月30日（土） 午前10時から午後4時まで（午前9時30分開場）

■会 場：武蔵野スイングホール（〒180-0022 東京都武蔵野市境2-14-1）

2階スイングホール

10階スカイルーム

11階レインボーサロン

武蔵野市動画チャンネル（YouTube）とケアリンピック武蔵野2024専用ホームページでオンライン配信とアーカイブ配信を行います。

■参加対象：介護及び看護事業者、介護・看護に従事する方、福祉の仕事に興味・関心のある方、市民、学生、その他どなたでも参加可能

■参加費：無料（入退場自由）

■プログラム概要

【2階スイングホール】

○構成劇

○シンポジウム

○演題発表

○表彰式

【10階スカイルーム】

○ケアマネジャーの仕事紹介・体験

○次世代介護機器の体験展示会

○サンキュー動画の上映

○演題発表のポスターセッション

【11階レインボーサロン】

○介護食コーナー

○血管年齢測定・ベジチェック

○介護川柳の展示

○福祉用具展示

○介護美容・ネイル

○骨格タイプ別分析

○キッズヘルパー！子ども介護職体験

【全体】

○スタンプラリー

○介護・看護職へのメッセージツリー

■主催：ケアリンピック武蔵野2024実行委員会

■共 催：武蔵野市

■後 援：一般社団法人武蔵野市医師会、公益社団法人東京都武蔵野市歯科医師会、一般社団法人武蔵野市薬剤師会、東京都柔道整復師会、武蔵野赤十字病院、社会福祉法人武蔵野、公益財団法人武蔵野市福祉公社、公益財団法人武蔵野健康づくり事業団、社会福祉法人武蔵野市民社会福祉協議会、公益社団法人武蔵野市シルバー人材センター

■協 力：公益社団法人国民健康保険中央会、杏林大学、武蔵野大学、武蔵野市居宅介護支援事業者連絡協議会、武蔵野市訪問介護事業者連絡会議、武蔵野市訪問看護・訪問リハビリテーション事業者連絡会議、武蔵野市通所介護・通所リハビリテーション事業者連絡会議、武蔵野市介護老人福祉施設長会、武蔵野市福祉用具事業者連絡会議、武蔵野市PT・OT・ST協議会、介護保険事業者その他、本抄録集P.6に掲載

主催者概要

■ケアリンピック武蔵野2024実行委員名簿 (敬省略)

役 職	氏 名	所 属 事 業 所	サービ​​ス種別	担 当
実行委員長	浅野 彰	株式会社日本介護センター 日介センター吉祥寺	訪問介護 (訪問介護事業者連絡会議)	統括
副実行委員長	丹内 まゆみ	株式会社みゆうちゅある 桜堤看護ステーションみゆうちゅある	訪問看護 (訪問看護・訪問リハ事業者連絡会議)	スイングホール (2階) リーダー
副実行委員長	能丸 創	社会福祉法人至誠学舎東京 吉祥寺ナーシングホーム	介護老人福祉施設 (介護老人福祉施設長会)	スカイルーム (10階) リーダー
副実行委員長	三木 明美	公益財団法人武蔵野市福祉公社 ホームヘルプセンター武蔵野	訪問介護 (訪問介護事業者連絡会議)	レインボーサロン (11階) リーダー
実行委員	内海 直子	株式会社三祐産業 稲垣薬局介護サービス	居宅介護支援 (居宅介護支援事業者連絡協議会)	スカイルーム (10階)
実行委員	江頭 尚幸	株式会社 FiveTrees 陽だまり訪問看護ステーション武蔵野	訪問看護 (訪問看護・訪問リハ事業者連絡会議)	レインボーサロン (11階)
実行委員	大脇 秀一	社会福祉法人とらいふ デイサービスセンターとらいふ武蔵野	通所介護 (通所介護・通所リハ事業者連絡会議)	スカイルーム (10階)
実行委員	小嶋 敏之	株式会社太平洋シルバーサービス 本社経営企画室	特定施設入居者生活介護 (公募)	レインボーサロン (11階)
実行委員	笹井 肇	社会福祉法人とらいふ 特別養護老人ホームとらいふ武蔵野	介護老人福祉施設 (公募)	スイングホール (2階) スカイルーム (10階)
実行委員	柴田 博子	株式会社ベネッセスタイルケア グランダ武蔵野	特定施設入居者生活介護 (公募)	スイングホール (2階)
実行委員	竹下 真実子	公益財団法人武蔵野市福祉公社 ケアプランセンター	居宅介護支援 (公募)	スカイルーム (10階)
実行委員	中島 久美子	合同会社 SHIIP 訪問介護ステーションえ〜とす	訪問介護 (公募)	レインボーサロン (11階)
実行委員	山本 真史	合同会社 SHIIP 訪問介護ステーションえ〜とす	訪問介護 (訪問介護事業者連絡会議)	レインボーサロン (11階)
実行委員	古川 洋高	医療法人社団陽和会 介護付有料老人ホームコートローレル	特定施設入居者生活介護 (公募)	スイングホール (2階) スカイルーム (10階)
オブザーバー	栗原 有	社会福祉法人親の家 特別養護老人ホーム親の家	介護老人福祉施設	
	山田 剛	武蔵野市	健康福祉部長	事務局
	吉田 竜生		高齢者支援課長	
	長坂 朋子		高齢者支援課相談支援担当課長	
	増田 美照		高齢者支援課介護保険係 介護サービス担当係長	
	門脇 ゆかり		高齢者支援課介護保険係 介護サービス担当主任	
	小谷 勇樹		高齢者支援課介護保険係 介護サービス担当主任	
	吉川 幹紘		高齢者支援課介護保険係 介護サービス担当主事	
	金丸 絵里		地域支援課在宅医療・介護連携担当 係長	





協力事業所一覧

【協力団体・事業者】

公益財団法人武蔵野市福祉公社 武蔵野市立高齢者総合センター在宅介護・地域包括支援センター
NPO 法人 グレースケア機構 NPO グレースケア
株式会社みゆうちゅある 桜堤看護ステーションみゆうちゅある
株式会社太平洋シルバーサービス シルバーシティ武蔵野
一般社団法人武蔵野医師会 ファミリーケアクリニック吉祥寺
社会福祉法人とらいふ とらいふ武蔵野 デイサービスセンター
株式会社三祐産業 介護福祉部 稲垣薬局 介護サービス (居宅介護支援)
医療法人元気会 わかさクリニック三鷹
社会福祉法人とらいふ とらいふ武蔵野 特別養護老人ホーム
クリーンむさしのを推進する会
株式会社hitotofrom まんまる薬局 LSB 吉祥寺
株式会社三祐産業 介護福祉部 研修室
三鷹武蔵野社会福祉士会 立ち直り支部
STAY株式会社 STAY訪問看護ステーション
社会福祉法人武蔵野 ゆとりえ在宅介護・地域包括支援センター
株式会社日本介護センター 日介センター吉祥寺
社会福祉法人至誠学舎東京 吉祥寺ナーシングホーム
公益財団法人武蔵野市福祉公社 ホームヘルプセンター武蔵野
株式会社FiveTrees 陽だまり訪問看護ステーション武蔵野
株式会社太平洋シルバーサービス 本社経営企画室
株式会社ベネッセスタイルケア グランダ武蔵野
公益財団法人武蔵野市福祉公社 ケアプランセンター
合同会社SHIIP 訪問介護ステーションえ〜とす
医療法人社団陽和会 介護付有料老人ホームコートローレル
社会福祉法人親の家 特別養護老人ホーム親の家
ボクシングケア倶楽部
株式会社iSEED
株式会社ワイズマン
社会福祉法人至誠学舎東京 吉祥寺ナーシングホーム デイサービスセンター
特定非営利活動法人日本アビリティーズ協会 吉祥寺本町在宅介護支援センター指定居宅介護支援事業所
株式会社ささえ 訪問看護ステーションささえ
株式会社伊藤園
キューピー株式会社
ピジョンタヒラ株式会社
株式会社明治
株式会社ベジタルアドバンス
明治安田生命保険相互会社
株式会社FiveTrees 陽だまり福祉用具
フランスベッド株式会社
ラヴィーナ株式会社
一般社団法人GIFT協会
東京消防庁 武蔵野消防署
武蔵野警察署
武蔵境商店会連合会



会場のご案内



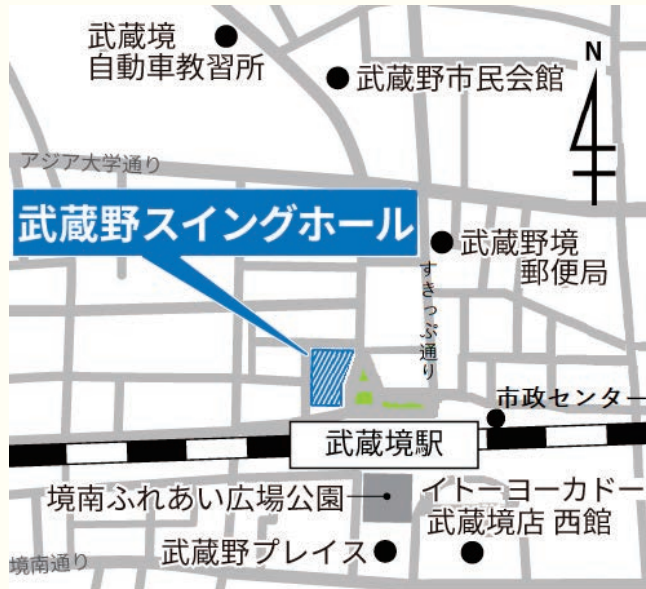
会場のご案内

●会場

武蔵野スイングホール

JR武蔵境駅 北口 徒歩1分

〒180-0022 東京都武蔵野市境2-14-1



2階 スイングホール

- ・開会式
- ・構成劇
- ・シンポジウム
- ・演題発表
- ・表彰式（介護川柳・演題発表）
- ・閉会式

10階 スカイルーム

- ・ケアマネージャーって何をするの？
- ・次世代介護機器の体験展示会
- ・サンキュー動画
- ・ポスターセッション

11階 レインボーサロン

- ・食べてためせる介護食コーナー
- ・あなたの血管年齢は何歳？
血管年齢、野菜摂取量測定
- ・募集！介護川柳
- ・福祉用具展示
- ・キラキラ介護美容・ネイル
- ・骨格タイプ別診断
- ・キッズヘルパー！子ども介護職体験

その他

- ・スタンプラリー
- ・介護職・看護職へのメッセージツリー



プログラム



タイムスケジュール

タイムスケジュール

日時：令和6年11月30日（土）午前9時30分開場 10時00から午後4時まで

場所：武蔵野スイングホール/ 2階スイングホール/10階スカイルーム/11階レインボーサロン

2F スイングホール

午前9時30分	開場
10時00分	開会式
10時15分	構成劇 「まちぐるみの支え合い」 ～今、あなたができることはなんですか～ 医療と介護に携わる人たちが贈るオリジナル構成劇。地域のみなさんと専門職たちがどんな役割を担い、どのようにお互いを支え合っていくのか?まちぐるみの支え合いを描いた物語です。
11時15分	シンポジウム 「まちぐるみの支え合い」を深化させるために自分たちができることは・・・ シンポジスト 丹内 まゆみ（訪問看護師）・弓野 香峰里（ケアマネジャー）・長坂 幸宏（理学療法士）・大谷 祐子（いきいきサロン運営者）吉田 竜生（武蔵野市高齢者支援課長） コーディネーター 笹井 肇（武蔵野市前副市長）
午後0時30分	演題発表 様々な介護現場で市民生活を支え続けている専門職達が、武蔵野市の地域として目指す目標に沿った取り組みを紹介し、互いに研鑽し、賞賛するプログラムです。
3時00分	介護川柳表彰式
3時20分	演題発表表彰式
3時50分	閉会式
4時00分	閉場

※進行の都合により時間が前後する場合があります

10F スカイルーム・11F レインボーサロン

午前10時00分	開場
	各展示・企画は午前10時00分～午後4時00分まで継続して実施されます
午後3時30分	閉場



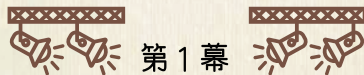
構成劇

医療と介護に携わる人たちが贈るオリジナル構成劇！

「まちぐるみの支え合い」

～今、あなたができることはなんですか～

これからご覧いただく物語は、医療や介護職の人手不足が深刻な状況の中、地域住民と専門職が協力して支え合い、誰もが自分らしく住み慣れた地域で生活を続けられるために、まちぐるみの一員として、一人ひとりが今できることを考え行動するそんなまちぐるみの支え合いの姿が描かれています。地域の皆さんと専門職がどのような役割を果たし、どのように支え合っていくのかをぜひご覧ください。



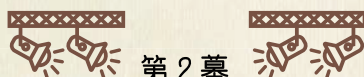
第1幕

流行病との闘い

新型コロナウイルスに罹患した方へ看護師、ヘルパー、福祉用具担当者が協力して患者のケアを行う場面を描いています。

◎登場人物：

- ・感染対策をしている専門職たち
- ・個人防護具を装着したレスキューヘルパー
- ・個人防護具を装着した訪問看護師
- ・福祉用具事業者



第2幕

シニア世代の語り

シニア世代の友人たちが集まり、自身の健康、介護、終活について話し合うシーンを描いています。老後の生活に対する不安や期待、またシニア世代が互いに助け合いながら老後に備える姿が描かれています。

◎登場人物：平均年齢80歳の仲よし5人組

・寺町 緑子（つらまち みどりこ）

武蔵野市で生まれ武蔵野市で育ち、顔が広い。人情があって、世話焼き。

・関世（せきよ） 武蔵野市在住50年。結婚から子育てを経て今に至る。

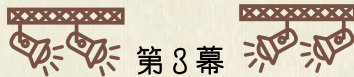
子育て時代からのつながりもあり色々な情報をもっている

・南（みなみ） 母親（久子さん）を自宅で看取った経験がある。長女はケアマネ、次女は訪問看護師をやっている

・本子（もとこ） 夫を亡くしてから地方から娘家族が住む武蔵野へ転居してきた。娘家族と同居はしてあらず一人暮らし

・御鈴（みすず） 介護受けている。脳梗塞の後、大腿骨骨折をして介護保険サービスの体験者。現在は、シルバーピア在住





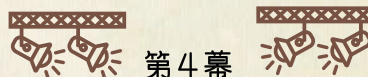
第3幕

介護世代の悩み

介護世代の人々が職場の休憩室で集まり、自分自身や家族の介護に直面し、経験を共有しながら、介護世代が抱える悩みや困難に向き合い、互いに支え合いながら、解決策を模索していく姿を描いたものです。

◎登場人物：平均年齢50代の介護世代たち

- ・ 北本（きたもと） 地方に親がいる介護世代 現役の会社員。
山梨県出身、武蔵野市在住。実家に要介護の母親が1人で過ごしており、1回/月は2泊3日くらい帰郷している。
- ・ 西（にし） 同居している介護世代。契約社員として働いている。夫と夫の父親と3人暮らし。
義父のもの忘れなどが気に かかり、みんなによく相談をしている。
- ・ 本町（もとまち） 介護経験者介護世代契約社員として働いている。現在、母親の介護をしながら仕事を両立させている。父親は急速に介護する間もなく見送ることになり後悔の念もある。



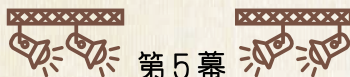
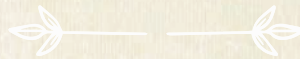
第4幕

新しい介護

現代のテクノロジーを活用して在宅介護生活を送る人々が描かれています。スマートフォンや音声アシスタントなどを使い、自宅での生活を快適に保っています。

◎登場人物：

- ・ 吉寺（よしでら） 難病で四肢が動かかせない一人暮らしの障害者
ICTなどを使い人に頼らずも自分でできることを見つけ快適に過ごす努力をしている
- ・ 訪問入浴業者



第5幕


退職後の生活

退職後の男性たちが新しい生活を模索し、社会とのつながりを保とうとする様子を描いています。高齢者が孤独を和らげ、他者との交流や新しい活動に対して前向きに取り組む姿がテーマとなっています。


◎登場人物：平退職後の男性たち

- ・ 堤（つつみ） 一人暮らし男性。数年前に妻をがんで亡くしている。とくに地域デビューをするこ
となく過ごしていたが、妻を亡くしてからいきいきサロンに参加するようになった。
- ・ 殿山（とのやま） 高齢者世帯夫婦。活動的な妻と正反対で、人との交流を積極的にとるタイプでは
ない。大人数で何かをやることは好まないが、小人数で話すことは苦ではない。





第6幕




孤独と支援


孤独や無力感に悩む高齢者が支援を受け入れる難しさと、その支援の重要性がテーマです。本人は当初、誰にも頼らずに生きようとしませんが、友人の訪問を通じて少しずつ支援を受け入れる気持ちになります。友人の言葉が、地域コミュニティの力と助けを求めることの大切さを象徴しています。周囲の人々の支えが彼の状況を少しでも改善するきっかけになることが示されています。

◎登場人物：同級生同士のふたり

- ・ 東 祥吉 (ひがし しょうきち) 介護拒否をしている高齢者
武蔵野市で生まれ武蔵野市で育つ。妻を亡くしてから息子と折り合
悪く、息子は出て行ったまり連絡が取れないでいる。人との交流は
好まず、変わり者といわれている。寺町緑子とは同級生。
- ・ 寺町 緑子 (てらまち みどりこ)
武蔵野市で生まれ武蔵野市で育ち、顔が広い。人情があって、世話者。



第7幕



連携

地域包括支援センターで孤独や無力感に悩む高齢者の支援計画を話し合うケース会議を描いており、複数の専門職が連携して彼を支援する様子が強調されています。地域福祉や介護の連携の重要性がテーマであり、若い世代がこの分野で働く意義も描かれています。

◎登場人物：介護・看護の専門職と福祉を学んでいる大学生

- ・ 前寺 (まえでら) 在宅介護・地域包括支援センター職員
武蔵野市で20年以上高齢者事業に関わるベテラン。頼りになる存在。
- ・ 境 (さかい) 事業所ケアマネジャー
武蔵野市で居宅介護事業所を経営している。医師や包括からの信頼も厚い
- ・ 久保 (くぼ) 転職してきたケアマネジャー
夫の転勤で上京。武蔵野市に憧れ上記事業所に就職をした。30代若手の
ホープとして期待されている。
- ・ 本祥 (ほんしょう) 実習生
地域包括で実習をしている大学3年生の福祉系学生。今回の実習で経験
したことをきっかけにこの業界で就職を考えている。
- ・ 中町 (なかまち) 訪問看護師
地域包括支援センターに併設している訪問看護ステーションに勤務。
センター併設ステーションということもあり、社会的背景に事情がある
方を多く受けもっている。
- ・ 桜野 (さくらの) 育児休暇中の訪問看護師
- ・ 武蔵 (むさし) 桜野の息子



第8幕 協力

自宅サービス担当者会議が行われています。高齢者が抱える問題（健康、経済、家族関係）に対する地域の福祉サービスや専門職のサポートを描いています。東さんは、当初は自力で何とかしようとするものの、次第に支援を受け入れていきます。この過程で、友人や地域の専門職が支え合いながら生きていくことの重要性が強調されています。また、迷惑をかけ合いながらも共に生きることの価値や、支援を受けることが「恥」や「弱さ」ではなく、必要な協力であるというメッセージが込められています。

◎登場人物：

- ・東 祥吉（ひがし しょうきち）介護拒否をしている高齢者
- ・寺町 緑子（てらまち みどりこ）東庄吉の同級生
- ・訪問診療医 前寺（まえつら）在宅介護・地域包括支援センター職員
- ・境（さかい）事業所ケアマネジャー 久保（くぼ）転職してきたケアマネジャー
- ・中町（なかまち）訪問看護師 本祥（ほんしょう）実習生 福祉用具業者

第9幕 地域のケア

東さんが医療や介護サービスの支援を受けながら回復し、日常生活に戻っていく過程を描いています。複数の専門職が連携して彼を支え、状態が改善していきます。東さん自身の努力と専門職の協力が結びつき、自立した生活に向けて進んでいく姿を描写し、在宅介護における地域のケア体制の重要性を示しています。

◎登場人物：自宅を訪問する専門職たち

- ・東 祥吉（ひがし しょうきち）介護を受け入れはじめた高齢者
- ・訪問介護士 薬剤師 訪問リハビリ デイサービス

第10幕 まちぐるみの支え合い

地域の人々がそれぞれの生活を取り戻し、コミュニティの中で支え合いながら充実した日々を送っている様子が描かれています。個々のエピソードを通じて、地域の支え合いの重要性とその影響が示されています。このシーンは、地域の人々と専門職が連携しながら、それぞれの支援が織りなす支え合いのネットワークを強調しています。各人物のストーリーを通じて、地域全体が互いに助け合い、支え合うことの重要性が伝えられています。



出演者&裏方スタッフ



役名	出演者
ストーリーテラー	高根 陽子 (桜堤ケアハウス在宅介護・地域包括支援センター)
ストーリーテラー	山崎 あゆみ (武蔵野赤十字在宅介護・地域包括支援センター)
中 (なか) / ハちゃん(写真のみ)	穴戸 延子 (NPO法人グレースケア機構)
個人防護具レスキューヘルパー	近藤 裕子 (ホームヘルプセンター武蔵野)
個人防護具訪問看護師	大神 雄 (陽だまり訪問看護ステーション武蔵野)
福祉用具事業者	長谷川 廉 (フランスベッド)
寺町 緑子	石井 いほり (武蔵野市医師会在宅医療介護連携支援室)
関世 (せきよ)	西田 友子 (かがやきデイサービス武蔵境)
南 (みなみ)	藤吾 美保 (愛心介護サービス)
御鈴 (みすず)	柴田 博子 (グランダ武蔵野)
本子 (もとこ)	遠藤 則子 (みゅうちゃある)
御鈴の孫家族(写真出演)	松村ファミリー&尾方親子 (友情出演)
御鈴の息子(写真出演)	仲田 啓人 (パナソニックエイジフリー武蔵野三鷹)
北本 (きたもと)	三浦 健 (三祐産業)
西 (にし)	三木 明美 (ホームヘルプセンター武蔵野)
本町 (もとまち)	井口 瞳 (ソフィアメディ訪問看護ステーション三鷹)
境 (まかい) ケアマネジャー	赤池 美都子 (ケアアランたいじゅ)
訪問診療医	中西 貴大 (ファミリーケアクリニック吉祥寺)
古寺 (よしむら)	小松 雅史 (グランダ武蔵野)
訪問入浴①	小山 節子 (稲垣薬局訪問入浴)
訪問入浴②	白土 沙百合 (稲垣薬局訪問入浴)
訪問入浴③	上田 充宏 (稲垣薬局訪問入浴)
訪問入浴④	小宮山 奈津子 (稲垣薬局訪問入浴)
堤 (つつみ)	大脇 秀一 (とらいふ武蔵野)
殿山 (とのやま)	森安 東光 (武蔵野市福祉公社)
東 祥吉 (ひがし しょうきち)	浅野 彰 (日介センター吉祥寺)
前寺 (まえでら) 在宅介護・地域包括支援センター職員	菊池 政之 (ゆとりえ在宅介護・地域包括支援センター)
久保 (くぼ) ケアマネジャー(新任)	上野山 友理 (やさしい手武蔵境)
中町 (なかまち) 訪問看護師	内藤 愛子 (桜堤看護ステーションみゅうちゃある)
本祥 (ほんしょう) 学生	後藤 幸 (友情出演)
桜野 (さくらの) 育林中 訪問看護師	遠藤 都乃 (友情出演)
武蔵 (むさし) 桜野の長男	遠藤 明生 (友情出演)
訪問歯科医	加島 正浩 (加島歯科)
訪問介護士	磯山 公一 (愛心介護サービス)
薬剤師	竹内 賢一郎 (まんまる薬局)
訪問リハビリ	長坂 幸宏 (陽だまり訪問看護ステーション武蔵野)
デイサービス職員	小川 正幸 (吉祥寺ホーム)
堤、殿山友人(写真出演)	笹井 肇 (とらいふ)
裏方スタッフ	近藤 和正 (グリーンパーク居宅介護支援事業所)
裏方スタッフ	小杉 勇一 (99マッサージ治療室)
裏方スタッフ	櫻井 祐子 (シルバージティ武蔵野)
裏方スタッフ	古川 洋高 (コートローレル)
裏方スタッフ	大橋 匡代 (グランダ武蔵野)
脚本・演出	丹内 まゆみ (みゅうちゃある)



シンポジウム



シンポジウム

“まちぐるみの支え合い”を推進・深化させるために自分たちにできることは…

■パネリスト

●丹内まゆみ(たんないまゆみ)氏

訪問看護師。株式会社みゆうちゅある代表。都立病院勤務を経て、1999年より都内訪問看護ステーションや在宅療養支援診療所、医療過疎地域の訪問看護ステーションに勤務。2013年11月に起業し、株式会社みゆうちゅある設立。現在、桜堤看護ステーションみゆうちゅあるとステーションに併設している暮らしの保健室を主軸に活動している。

●長坂幸宏(ながさかゆきひろ)氏

理学療法士。陽だまり訪問看護ステーション所属。鹿児島県出身。茨城県立医療大学卒業し、鹿児島や東京で約10年間病院勤務。回復期を中心に外来や療養病棟、在宅でのリハを経験。東京パラリンピックにもメディカルスタッフとして参加。その後、陽だまり訪看に入職し、武蔵野・三鷹地域の訪問リハビリを行っている。現在3児の父として、仕事と育児に奮闘中。

●弓野香峰里(ゆみのかおり)氏

ケアマネジャー。アクセスポイント吉祥寺ケアプラン所属。2002年より介護職として在宅サービスの現場勤務。2009年より武蔵野市を中心にケアマネジャーとして業務を行っている。

■コーディネーター

●笹井肇(ささいはじめ)氏

武蔵野市前副市長。1980年武蔵野市役所入庁。1998年より介護保険準備室主査として介護保険導入に携わる。市民協働推進課長、高齢者支援課長、防災安全部長、健康福祉部長などを経て、2018年4月より2022年3月まで副市長。現在、(公財)武蔵野市福祉公社顧問、(社福)とらいふ理事。主な著書に『地域包括ケアサクセスガイド』(共著：メディカ出版)、『改正介護保険の新しい総合事業のてびき』(共著：第一法規)など。

●大谷祐子(おおたにゆうこ)氏

なのはなサロン副代表。「なのはなサロン」は、武蔵野市の「いきいきサロン」事業の一環として関前に発足し、今年で8年目を迎える。活動場所として施設の一部を提供している法人や、地域包括との連携に大変感謝しながら、地域の皆様と共に活動を行っている。今後も様々なプログラムを通じて、皆様の笑顔あふれる居場所作りを続けていく予定である。

●吉田竜生(よしだりゅうせい)氏

武蔵野市健康福祉部高齢者支援課長。平成14年武蔵野市入庁。高齢者福祉課(現高齢者支援課)、厚生労働省老健局等を経て、高齢者支援課にて介護予防・日常生活支援総合事業の企画調整、実施、基幹型地域包括支援センターの運営等を担当(平成27年～31年)。保育施設整備担当課長(平成31年～令和2年)、子ども育成課長(令和2年～6年)の後、令和6年4月から現職。





演題発表抄録集



演題発表

■審査委員

武蔵野大学人間科学部社会福祉学科 教授 渡邊浩文氏

日本社会事業大学大学院社会福祉学研究科博士後期課程修了。博士（社会福祉学）。
社会福祉法人浴風会 認知症介護研究・研修東京センター 研究主幹等を経て、
現在、武蔵野大学人間科学部社会福祉学科教授。専門は、ケアマネジメント、認知症ケア。
東京都認知症施策推進会議委員、テンミリオンハウス事業有識者会議等

杏林大学保健学部看護学科 教授 柴崎美紀氏

東京医科歯科大学医学部保健衛生学科看護学専攻卒業。
看護師として、沖縄県にて、内科、外科、精神科、内視鏡室に勤務。
その後、東京都多摩地域の診療所・施設等、在宅医療関連事業に勤務。
2014年より杏林大学保健学部看護学科に着任、2021年より現職。在宅看護学に関する科目を担当している。

■演題一覧（口演のみ）

No.	テーマ	事業者及び団体名	座長
1	親族に頼れない時代 どうする老後！？ ～地域と共に考えた老いじたく講座の報告～	武蔵野市立高齢者総合センター在 宅介護・地域包括支援センター	柴崎氏
2	難病の高齢者と共につくる楽しい武蔵野ライフ ～人工呼吸器で吸引も必要なALSの方、ヘルパー育成と多職種連携でどこまでも行く！～	NPO グレースケア	渡邊氏
3	『食べる』を支える ～本人と家族の想いに寄り添う食の支援～	桜堤看護ステーション みゆうちゅある	柴崎氏
4	在宅復帰への取り組み ～緊急入居依頼に対する即日対応～	シルバーシティ武蔵野	渡邊氏
5	訪問栄養相談の取り組みについて ～「食」「栄養」の切り口から患者様・ご家族のお困りごとに応えたい～	ファミリーケアクリニック吉祥寺	柴崎氏
6	「チームワークの向上」が果たす生産性向上への効果 ～誰もが実践可能！ICT、ロボット導入以前に取組める生産性向上～	デイサービスセンターとらいふ武蔵野	渡邊氏
7	居宅介護支援事業所における生産性向上の取り組み ～取り組みを通して職員の絆を育み、ワークエンゲージメントを高める～	稲垣薬局 介護サービス	柴崎氏
8	地域に根付いた訪問診療を進めるための多職種連携の成果と課題	医療法人元気会 わかさクリニック三鷹	渡邊氏
9	バリアフリーガーデン「とらいふあーむ」で多主体の新たな交流 ～コロナ禍が生んだ、新しくも懐かしいまちぐるみの支え合い～	特別養護老人ホームとらいふ武蔵野 クリーンむさしのを推進する会	柴崎氏
10	おうち訪問薬剤サービスの取り組みについて ～まんまる薬局独自採用「ボランチ制度」とは～	まんまる薬局	渡邊氏
11	事故を起こさない為の取り組み ～大好きなお風呂に安心安全に提供したい～	株式会社三祐産業 介護福祉部	柴崎氏
12	誰一人取り残さない地域を武蔵野から ～立ち直りを支える地域ネットワークづくり～	三鷹武蔵野社会福祉士 立ち直り支部	渡邊氏
13	『すこやか朝活』の社会的効果 ～誰もがWell-Being「しあわせと健康」を実感できるシンプルで持続可能な朝活動～	ゆとりえ在宅介護・地域包括支援 センター ファミリーケアクリニック吉祥寺 STAY訪問看護ステーション	柴崎氏

■演題発表表彰式 午後3時20分から 2階 スイグホール

親族に頼れない時代 どうする老後!?

～地域と共に考えた老いじたく講座の報告～

在宅介護・地域包括支援センター
公益財団法人武蔵野市福祉公社 武蔵野市立高齢者総合センター
上田令子・武田美智代

【目的】

当センターは、地域の高齢者の「総合相談窓口」及び「地域づくり（地域包括ケアの推進）」を主な業務としている。日々、多岐にわたる相談に応じる中で、頼れる親族のいない高齢者に対する支援に、特有の困難さを感じていた。認知症や経済的な問題等が顕在化した時には、すでに支援が必要なタイミングを逸しており、複雑かつ深刻な状況に陥り、課題解決に多くの時間を要する。

親族関係が希薄になり、親族に頼れない又は頼りたくないと考える高齢者が増加するなか、社会的孤立を防ぎ、地域で支えあう仕組みづくりが必要だと考えた。生活が立ち行かなくなる前に、望む生活を選択できるように、地域住民と共に取り組んだ「地域づくり」の実践について報告する。

【具体的な取り組み方法】

自身が歳を重ねた際の不安について、具体的に考えるきっかけとして、「老いじたく」の講座を企画した。住民同士がお互いの事を知り、繋がりあえるよう全4回の連続講座とし、対象地域は保証人が不在でも入居でき、高齢者世帯の住み替えの多いURの居住者に限定した。

初回に皆で話し合いたいこと・学びを深めたいことを話し合い、次回以降のテーマを選定した。参加者自らで決定したテーマについて学びあい、最終回は「個人の課題＝地域の課題」と視点を広げ、地域の関係団体の参加も得て、地域ケア会議を開催した。

【取組み結果】

自治会、URコミュニティと協働して講座のチラシを作成し、当センターの案内と共に、全900戸にチラシを配布した。結果、配布2日間で申込が定員に達し、住民の関心の高さが伺えた。「老後のために備えておきたいこと」として参加者の関心が高かった4つのテーマ（①急病の時にどうするか、②認知症になったら、③老後のお金について、④介護保険サービス）に合わせ、職員及び、専門機関の協力を得て講座を開催した。講座最終回の地域ケア会議では、多くの地域関係者の参加も得て、見守り合いのネットワーク作りや、地域の社会資源を把握し、困りごとの解決に向け協力してできるアイデアを募り、議論した。

発表にあたり、個人を特定できるような表記や画像は使用しないよう倫理的配慮に努めた。

【考察】

老後の不安は個別性が高いが、同じ地域の世代や世帯構成が近い場合、共通の不安や課題を抽出しやすい。共通の関心ごとには参加者同士の連帯を生み、共に団結し課題に向き合っていくことを改めて実感した。

高齢者自らが老後に備えることは、自分の人生の尊厳を守ることでもある。

この取り組みを通じて、地域住民が互いに見守り合える関係づくりを促進し、たとえ身寄りがなくても、困ったときには助け合える地域作りを、今後も育んでいきたい。



難病の高齢者と共につくる楽しい武蔵野ライフ

人工呼吸器で吸引も必要なALSの方、ヘルパー育成と多職種連携でどこまでも行く!



訪問介護

NPO グレースケア トータルケアコーディネーター
介護福祉士 加守田久美

【目的】

高齢になると心身機能は低下し、介助の必要性は増す。そこで気ままな暮らしをあきらめることが多い。今回、難病のため全身の筋力の低下から寝たきりになったものの、なるべく地域で変わらぬ楽しい生活を送ることを目指して、ヘルパーのスキル向上と本人を中心とした多職種連携、そして外遊びに取り組んだ。

【具体的な取組み】

- ①対象者 男性66歳
ALS（筋萎縮性側索硬化症）
- ②具体的な内容・手順
 - 1) ご本人との関係づくり
 - 2) 研修
 - ・ 同行研修
コミュニケーション（文字盤）、排泄など身体介護、ポジショニング、医療的ケア、病気の知識等
 - ・ 医療的ケア（第3号）研修
吸引（気管カニューレ・鼻・口）経管栄養（胃ろう）
 - ・ 看護師による実地研修の実施
 - 3) 手順書
 - ・ マニュアル類の整備
ケア・文字盤81項目・備品・段取り
 - 4) 情報共有
 - ・ 社内チャット、カンファレンス
 - 5) 多職種連携
 - ・ MCSの活用、担当者会議
 - ・ 緊急時対応、呼吸器勉強会など
（本人・家族、ケアマネジャー、ヘルパー6社、

看護師2社、訪問診療、病院、訪問入浴、訪問マッサージ、福祉用具、保健所、武蔵野市）

③取組み時間や期間

2016年 4月 介護保険訪問開始
8月 重度訪問介護の併用
2020年 2月 医師でALS患者の講演参加
3月 初めてのお花見 武蔵野市役所前

翌年以後 井の頭公園、小金井公園・夜桜大相撲、同窓会、映画、府中花火、鎌倉等

④必要とした道具

- ・ 吸引器 ・ 人口呼吸器 ・ カテーテル
- ・ 消毒衛生用品 ・ 水 ・ トートバック
- ・ スライディングボード ・ アンビュー等

【結果】

本人の笑顔が増え、行きたい場所等希望を引き出せるようになった。当初、環境や条件のハードルを高く感じていたが、支援できるヘルパーが他社と共に増え、本人の意思で速やかに出かけたり、看護師や他利用者と楽しむ機会も作れた。

【考察】

ついケア負担から利用者を見がちなところ、それは目的ではなくよりよい暮らしのための手段であることに気づいた。過度なリスク意識や困難ケースという偏見にとらわれず、今後もチームでチャレンジして経験を重ねることで、どんな人でも普通に愉しめる武蔵野を作っていきたい。

※発表にあたり、ご本人・ご家族に口頭にて確認をし、本発表以外には使用しないこと、不利益を被ることはないことを説明し同意を得た。

『食べる』を支える

～本人と家族の想いに寄り添う食の支援～

訪問看護

桜堤看護ステーションみゆうちゅある

看護師 門守公子 小島香

【目的】

最期まで「食べたい」「食べさせたい」という想いに寄り添い、「食べる」ことがその人にとってどんな意味があるのか。病期が変化していく中で、段階に応じた「食べる」ことの目標設定・支援方法を考え、家族と「食べる」ことの重要性を共に分かち合えた事例を紹介する。

【具体的な取り組み】

①対象者：90代 女性 病名：末期結腸がん・認知症 独居 長男家族近隣在住

②関わり期間：令和5年12月18日～令和6年6月17日

③経過：元々食べる事が大好きで、またグルメな趣向の方であった。認知症を患い「食べる」ことへの関心が高い傾向にあり常に空腹感を訴えていた。病期に合わせた（IMADOKOツールの活用）目標設定と本人の要望を受け止め、食事提供を行なった。IMADOKO①自立：「排泄の調整、要望に添って美味しく食べる」薬剤調整、分食、小さなスプーンにしゅっくり摂取する事で満腹感を得る、おやつ工夫を行った。一人の時間になる時は、息子提案で、手の届く安全な場所に消化の良いポーロやウエハース、ビスコ、好物のカルピスが入ったカゴを付け自由に飲食できるようにした。IMADOKO②介助：「食べたいものを食べただけ」嚥下機能低下による誤嚥性肺炎のリスクがある為、嚥下姿勢の確認指導を行う。食事形態の見直し、栄養補助食品の提供。IMADOKO③介助：息子の想いや気持ちを尊重する目標を追加する。「母が苦痛なく過ごせる為に“息子ができる”一番の食事提供方法を考え、『食べる事を通して家族の存在意義を支援する』空嚥下（何も乗せていないスプーンを口に入れてもらう）や交互嚥下を取り入れ最期まで食べる支援を継続した。本人の要望で好物の天井を提供する工夫をした。息子の嫁が購入してきた、かき揚げを少量使用、タレに浸し海老や野菜のエキスを出しゴマ油を入れ、とろみを付けて息子が介助した。家族と一緒に過ごす時間をお互いに安心できる時間として提供をした。

【結果・考察】

好きなものをおいしく食べる・食べただけ食べる・最期まで食べさせてあげたい。本人・家族の要望を受け止め実行できたこと、安全な方法で支援することで、「食べる」行為が本人・息子にとって安心できる事に繋がった。病期によっては、危険リスクが高いことで食べさせないと判断されることが多い。「食べさせたい」息子の気持ちに寄り添って支援できたことは本人にとっても、最期まで息子の存在を確認できる手段の1つになった。最期まで、様々な心の葛藤があった中で、最期まで「食べる」ことの支援ができた事、これは母息子が有意義に過ごせた重要な時間になった。「何が食べたい？」「うなぎ！天井が食べたい…」「ああああ美味しい！もっとちょうだい！」と笑顔で会話される姿は今も目に焼き付いている。「食べる」事を通して家族の存在意義をお互いに感じ合う事ができる時間提供になったのではないかと考える。

【倫理的配慮】

発表にあたり、ご家族に口頭で確認をし、本発表以外には使用しないことそれにより不利益を被ることはないことを説明し、同意を得た。



在宅復帰への取り組み

緊急入居依頼に対する即日対応

介護付有料老人ホーム

シルバーシティ武蔵野

介護支援専門員 勢登裕介 看護師 北岡仁美

【背景・目的】

救急搬送や通院をしたが入院するまでには至らず帰宅される方も多い。その際、一時的に在宅生活ができない状況となり、地域包括支援センター等より当ホームに対し、ご相談当日の緊急入居依頼を頂くことが多々ある。介護付有料老人ホームは終の棲家であるが、当社では空室があればご相談当日でも積極的に受け入れを行っている。今回はその実例を元に、地域医療、訪問看護、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所と連携した「在宅復帰への取り組み」について紹介する。

【取り組み事例①】

対象者：Aさん 80代後半 女性 一人暮らし 介護保険申請中

(目的) 転倒による右肩骨折にて入院。手術や入院生活により体力・気力の低下が見られ、退院後の在宅復帰が困難な状況に。在宅復帰のための体力・気力の向上やリハビリ、自宅リフォームも必要な状況となったことから、地域包括支援センターより緊急入居依頼を受ける。

(支援内容) かかりつけ医が無かった為、滞在中は当社協力医に依頼。また、歩行が右に傾くため日々の歩行介助を継続。さらにサークル等への参加を促し精神面の支援を行った。

(連携) ご本人、ご家族、訪問看護、訪問介護にて在宅復帰に向けてのカンファレンスを実施。ご滞在中のご様子報告から自宅リフォームの手摺り取り付け位置の参考となり、また、集団生活にも慣れたことで在宅復帰後のデイサービス利用に繋がった。

(結果) 約1カ月の滞在中にて、体力が回復し歩行も介助なしとなる。当初はお部屋に籠り気味だったが、サークルやイベントへの参加、職員の声掛けにより気力も向上。お食事もラウンジで召し上がられるようになった。ご退去後、現在も在宅生活を継続されている。

【取り組み事例②】

対象者：Bさん 90代前半 男性 要介護2 認知症の奥様と二人暮らし

(目的) 数日前より急に立ち上がれなくなり救急搬送。異常無しとの診断で帰宅されたが、翌日も症状は変わらず。在宅生活継続のため、体調の安定、適切な栄養摂取と共に、往診医確定までの間の利用を目的に居宅介護支援事業所より緊急入居の依頼を受ける。

(支援内容) 通院から往診医に切り換える方向で検討されていた矢先の出来事。ケアマネージャー様からお薬手帳等、出来るかぎりの医療情報を頂き、状態観察・内服介助・栄養摂取介助を実施。しかし、ご入居2日目に38度の発熱。意識はあるが右足が動かしにくい状態。

(連携) 看護師がすぐにご家族様へ状況報告。ご家族様が地域包括支援センターへ連絡され、同日夕方には往診医が確定。翌日午前中の往診となった。

(結果) 往診にて「脳梗塞の疑い」と診断され救急搬送。当ホームでの健康観察と迅速な対応・報告が適切な医療へと繋がった。

【考察】

ご相談当日の緊急入居依頼を多く頂く中で、当ホームの取り組みと地域連携によって、在宅復帰に繋がるケースや、隠れた疾患が解り命を救う支援ができることがある。引き続き地域の皆様と連携し「在宅復帰」の為に支援に取り組んでいきたい。

訪問栄養相談の取り組みについて

「食」「栄養」の切り口から 患者様・ご家族のお困りごとに応えたい

ファミリーケアクリニック吉祥寺
管理栄養士 瀬谷理絵

【目的】

当院は訪問診療を専門とする医療機関である。管理栄養士が常勤で配置されており、主に診療アシスタントとして日々の訪問診療に同行し、医師のサポートや連携業務を行っている。また、医師の指示のもと、診療とは別途で「訪問栄養相談」を実施している。

当院における訪問栄養相談の取り組み内容について報告する。

【具体的な取り組み方法】

訪問栄養相談（在宅訪問栄養食事指導）とは、介護保険や医療保険を用いて、管理栄養士が自宅等に定期的に訪問し、食事や栄養面での支援を行うサービスである。1回30分以上、月2回までを基本として訪問している。

① 訪問栄養相談の導入・認知度の向上に向けた取り組み

- ・制度や介入フローについて院内スタッフ向けの勉強会を実施
- ・月末に訪問件数を報告、導入経緯の共有
- ・訪問日のカンファレンスにて症例共有
- ・ICTツール（MCS）にて関連職種へ訪問内容の報告、報告書の添付
- ・パンフレットを作成し、患者様や連携機関に配布

② 訪問栄養相談の実施内容

- ・低栄養の方へ効率良く栄養が摂れる食事内容の提案
- ・嚥下機能に合わせた食形態や調理方法の提案
- ・栄養補助食品や介護用食品の紹介、活用方法の提案
- ・食事療法が必要な方へ実践方法の提案
- ・患者様やご家族に対する社会的、精神的サポート

【取り組み結果】

- ・訪問栄養相談に対する院内の理解が深まり、迅速に介入・件数増加に繋がった。
- ・診療同行していない患者様であっても、他スタッフからの介入依頼が増加した。
- ・低栄養、嚥下機能低下、生活習慣病、肥満など幅広い疾患の方に介入できた。
- ・診療と連携しながら、栄養改善のみではなく、患者様やご家族の精神的サポートの側面からも介入できた。

【考察】

訪問診療を通して、栄養相談のニーズは高いことが示唆された。在宅療養者や要介護者の増加に伴い、今後もニーズは増大していくことが予測される。訪問栄養相談の制度を活用し、「食」「栄養」というひとつの側面から、患者様・ご家族のQOL向上に寄与したいと考える。



「チームワークの向上」が果たす 生産性向上への効果

誰もが実践可能！ICT、ロボット導入以前に取り組める生産性向上

通所介護

デイサービスセンターとらいふ武蔵野

生活相談員 上村 千秋 管理者 大脇 秀一

【目的】

稼働率の低迷、職員定着の悪化が続く中、どのような方法・手段を取れば効果が上がるのか思い悩みながら検討していたところ、武蔵野市より厚生労働省主催の生産性向上研修の案内を頂いた。職員を定着させ、稼働率を向上させることを目的に暗中模索の中、同研修を通して生産性向上に取り組んだ。

【具体的な取り組み方法】

1. 改善活動の準備
 - (1) 正確な数字（実績）を基にした現状把握
 - (2) 職員アンケート、個人面談を基にした職員の意識確認
 - (3) 職場全体での合意形成（課題の明確化）
2. 実行計画の立案
 - (1) 取り組むべき改善活動項目の決定
 - (2) 課題解決の道筋の明示
3. 改善活動の取り組み
 - (1) チームワークの向上
 - (2) 数字（実績）への意識付け
 - (3) 業務マニュアルの見直し
 - (4) マッスルスーツ導入の検討
 - (5) 生活相談員の業務振り分け
 - (6) 情報共有の強化
 - (7) 職場内の整理整頓
 - (8) 新たな取り組み

【取り組み結果】

4. 直接的な（数字に表れる）成果
 - (1) 稼働率：65.8% ⇒ 88.3%
 - (2) 離職率：28.6% ⇒ 11.1%
5. 間接的な（数字に表れない）成果
 - (1) 職員間の連携プレー向上
 - (2) 職員の態度の変化
 - (3) ケアマネからの評価
6. 実現に至らなかった項目
 - (1) マッスルスーツの導入
 - (2) ICTの導入

【考察】

取り組みを進める中で、稼働率の低迷及び職員定着の悪化の最大の原因は、職員間の足並みが揃っていないことではないかと感じ、知識や技術の向上はさておき、最重要項目として「チームワークの向上」を掲げ、チームワークの向上に繋がる活動を続けてきた。職員の間にも本取り組みを開始する以前から「このままではいけない」との危機感が広がっていたようで、チームワークの向上を職員が意識しだした途端に職員の言動に変化が出てきて全てではないが、これまで他人事にしてきたことを他人事にしなくなり、その結果、上記のような成果に繋がっていった。個々の具体的な内容はケアオリンピックで発表する。



居宅介護支援事業所における 生産性向上の取り組み

～取り組みを通して職員の絆を育み、ワークエンゲージメントを高める～

居宅介護
稲垣薬局介護サービス
管理者 稲住 成由美

【きっかけと目的】

日頃から書類整理や事務処理の効率が悪く、事業所内を片付けないと…と思いながら日々の業務に追われ放置していた。厚労省が勧める『介護現場における生産性向上セミナー』参加をきっかけにケアマネジャー自身が事務所内で業務効率化の書類整理や環境整備についての課題を抽出して、事務負担の軽減と働きやすい職場環境を作った取り組みを紹介する。

【具体的な取り組み】

①対象者：ケアマネジャー、事務員、経営者

②取り組みの具体的な手法：

生産性の取り組みの研修に参加しつつ現場の具体的な取り組みと並行して実践した。取り組む内容・いつ誰がどのように行うか・目標等を定めた。成果を実感できるように各職員からアンケートを取り、その結果を数値化した。

③取り組み時間や期間：令和5年7月～現在

④取り組み手順

- 手順1 改善活動の準備
- 手順2 現場の課題の見える化
- 手順3 実行計画を立てる
- 手順4 改善活動に取り組む
- 手順5 改善活動の振り返り
- 手順6 実行計画の練り直し：次のフェーズ

⑤構成者：居宅職員全員と経営者代表

⑥連携：進捗状況を経営者へ随時報告

⑦必要とした道具や費用

〈第1弾〉令和5年7月～令和5年12月

◆事務所内の環境整備・書類整理の取り組み
相談室設置：キャビネット・椅子の調達・機の
購入2,400円 パーテーション撤去費66,000円

〈第2弾〉令和6年2月～現在

◆働きやすい職場とIT環境整備の取り組み

在宅ワーク・在宅ワーク実施のための法整備・モバイル機器導入の提案（スマートフォン4台・モバイル機器4台購入予定）※中小企業向けIT機器導入促進助成金事業を活用・試算中）

⑧活動の成果を出すポイントになった点

i 経営者や管理者がトップダウンで職員へ提案するのではなく現場職員からリーダーを選出し現場の協力者・仲間を増やしながら繰り返し生産性向上の取り組みを行った。

ii 経営者を巻き込み、取り組みの進捗状況や成果報告を行うことで助成金の情報が得られた。

⑨取り組みへの経営者側のバックアップ体制

経営者は現場からの報告を受け、必要なアドバイスや物品の検討・購入等を行い、現場と共同で生産性向上の取り組みを行った。

【取り組んだ結果】

＜第1弾＞事務所内の書類の整理と格納、相談室を別階に確保。＜第2弾＞在宅ワーク・ICT機器の導入。（利用者様から個人情報の取り扱いの同意を得た。）目標達成のため職員同士の会話が増えて事業所内の雰囲気良くなり、士気が上がった。直近の事務負担は軽減したかというアンケート調査で50%の職員が軽減したと回答。

【考察】

生産性向上の取り組みは繰り返し行なうことが職員間の絆を育み、成果に繋がるのではないかと。また、取り組みの成果を経営者と共有できるためお互いの理解が深まったと言える。この取り組みはワークエンゲージメントを高められると推察できるが、今後も継続して経過を見る必要がある。



地域に根付いた訪問診療を進めるための多職種連携の成果と課題

医療法人元気会 わかさクリニック三鷹
マネージャー 菊嶋 建二

【目的】

わかさクリニック三鷹院は2022年8月に開院して3年目を迎えた。これまで400名を超える患者の訪問診療に当たってきたが、クリニック単体で出来る事は限られており、ケアマネージャー・訪問看護ステーション・訪問薬局など連携を取りながら診療を進めている。本日は多職種連携の成果と課題を紹介する。

【具体的な取組み方法】

- ①対象者：居宅介護支援事業所、訪問介護ステーション、訪問薬局
- ②取組期間：2023年9月～2024年8月
- ③連携方法：電話、訪問、同行、ICTの活用
- ④ICTの活用実績：MCS（Medical Care STATION）,モバカル

【取組み結果】

近年、MCSやモバカルを用いた複数の医療機関の情報共有が進んできた。患者訪問後の訪問看護St.からの報告により、薬剤師から薬剤や投与経路の変更の提案をいただき、診療に反映させることで患者満足度を高めて治療を行うことが出来た症例が増えてきた。一方、末期がん患者の居宅看取りも増えてきており、独居の患者の居宅での看取りは大変難しい。症例を交えて紹介する。

【考察】

ICTの発達により情報共有は迅速に行えるようになったが、「MCSに書き込んだから相手はわかっているだろう。」といった不確実な伝達が増えてきている。深夜・早朝の書き込みは、先方が確認できていないかもしれない。との観点から確認が必要である事を痛感する事がある。また、ケアマネ、訪問看護との同行訪問を予定していても医療依存度の高い患者が増えてくると、緊急往診等の依頼も増し、訪問時間が後ろ倒しになり同行者をお待たせするケースも発生している。

質の高い訪問診療を行うためには、多職種連携は必須であり、互いの信頼を高めながら医療を行っていく事でしか患者満足度の高い医療は提供できない。地域に根付いた医療を提供するために地域医療構想の一翼を担える医療機関を目指す。情報共有の精緻化に終わりは無い。

バリアフリーガーデン「とらいふあーむ」で 多主体の新たな交流 ～コロナ禍が生んだ、新しくも懐かしいまちぐるみの支え合い～

介護老人福祉施設

特別養護老人ホームとらいふ武蔵野 副施設長 河原優子

クリーンむさしのを推進する会 志賀和男

【目的】

コロナ禍に生じた入居者・家族・施設・地域の分断の中、感染リスク低減と社会的交流の両立を目的にバリアフリーガーデン「とらいふあーむ」を開設し、活動を展開している。



【具体的な取組み方法】

2022年1月、運営企画推進室の職員2名により、法人内事業所でいきいきサロンを運営する団体「クリーンむさしのを推進する会（以下、クリーンむさしの）」代表に相談。同年4月から団体メンバー2名と共に開設準備に取り組んだ。活動資金は、武蔵野市クラウドファンディング活用促進事業を利用し119万円を調達（8/1～10/19 クラウドファンディングサイト GoodMorning）。9月には、施設の南側、併設する保育所とデイサービスの間に位置する奥行き5m×幅37mの屋外空間に、車椅子で作業できる形状の大型プランター（廃材による手作り）を14基設置し、園芸活動を開始した。屋外に面会できる空間が生まれたことで、三密が回避でき、入居者・家族が切望していた直接面会が実現した。

開設から2年の間、週1回の定期作業と各種イベントを行っている。具体的には、「野菜の収穫イベント」、「コミセン祭の出張ワークショップ」、「とらいふマルシェ」、むさしのエコreゾート「環境の学校 Youth プロジェクト」のワークショップ等々である。地元企業との協働による「ホップ栽培」においては、2年目に近隣特養3施設の合同プロジェクトに発展し、施設間の連携や地域コミュニティの繋がり強化を目指し活動を続けている。2023年2月には、施設厨房の生ごみを利用した堆肥作りを開始し、自家製堆肥を用いた野菜作りが実現した。園芸活動の他にも、地域住民を対象としたACP（アドバンスケアプランニング）推進のための交流会「もしもの会」を定期開催し、毎月十数名の参加者（入居者・家族・地域住民・職員）が、共に語り合う機会になっている。

これらの活動については、東社協実践報告会やSNS、広報紙「とらいふあーむ通信」や職員が作詞作曲した「とらいふあーむの歌」を用いて発信している。また、活動の効果や再現性に関する知見獲得を目的として、開設準備期間から現在まで千葉大学大学院との共同研究が進められており、2024年4月からはこの研究に対して、大手財団からの研究助成を受けている。

【取組み結果】

定期作業メンバーは現在6名に増え、運動や社会的交流の場となっている。コミセン祭の出張ワークショップは、毎年100名以上の参加者による多世代交流の場になっている。コロナ第8波の渦中に開催した「とらいふマルシェ」では、54名の外部利用者が参加し、感染防止と交流を両立させるための課題が抽出された。また、とらいふあーむにおける日常的な散歩風景では、職員が入居者との交流を深め「尊厳の保持」について肌で学ぶ機会になっている様子も伺える。本活動を通じて、施設の内/外、ケアの支え手/受け手、世代など立場の違いを超えた人々の温かなつながりが生まれている。

【考察】

2年間でとらいふあーむに関与した人の数は延べ1,000人を超えており、これは「失敗も楽しみながら、まずは挑戦する」という姿勢が生んだ効果だと考える。産学官との協働により、市内外に広くこの取り組みを発信し、法人理念「人の幸せ・地域の幸せ・福祉文化の創造」の具現化のため、今後も取り組んでいきたい。



おうち訪問薬剤サービスの 取り組みについて まんまる薬局独自採用「ボランチ制度」とは

訪問薬剤
まんまる薬局
薬剤師 高山（竹内）賢一朗

【目的】

薬剤師が訪問することでご自宅での薬剤管理・コンプライアンス（服薬順守）管理をサポートする訪問薬剤師であるが「情報」をより他職種へ発信するために独自に採用している取組「ボランチ制度」がどのような相乗効果を目的としているのか紹介する。

【具体的な取組み方法】

①ボランチのご紹介

ボランチとは非薬剤師（管理栄養士等）であり薬剤師と共におうち訪問薬剤サービスを担う存在である。二人体制により「患者対面時間の増加」「業務の効率化」「ダブルチェックによる質の担保」を実現し情報取得・発信を行う時間を確保することでよりよいサービス提供を目指す。

②ボランチの実働

弊社では約2500件/月（2024年7月3店舗合計）の個人宅訪問を行い、休日夜間対応等を除き基本的に2名体制でサービス提供している。それらを「事前準備」「訪問」「事後作業」に分けるとボランチが担う業務は下記となる。『事前準備』日程管理『訪問』運転・薬剤セット『事後作業』情報共有

③訪問1回あたりのコスト

2名体制になることでハードルとなり得る人件費についてだが弊社では下記のように算出している。薬剤師一人で訪問した場合「事前準備」「訪問」「事後作業」で合計105分・人件費5600円になる一方で二人体制の場合は合計60分・人件費5325円となりボランチとの訪問はよりコストを抑えられるという結果になっている。

【取組み結果】

ボランチ制度により薬剤師は薬学的

管理に注力ができるため事前・訪問中の情報取得や事後の情報発信を移動中に行うことでスピード感をもった対応が実現している。

【考察】

二人体制による訪問薬剤が行われることでより薬学的アセスメントに注力でき、情報共有の強化につながっていると考えている。他職種への連携強化は結果として患者様への貢献度が高まるだろう。

事故を起こさない為の取り組み

～大好きなお風呂に安心安全に提供したい～

訪問入浴

株式会社三祐産業 介護福祉部

研修室 小山節子看護師

訪問入浴 白土沙百合看護師

【目的】

私達の訪問入浴で

「安心して最後まで利用者にお風呂に入ってもらいたい」

「お風呂で笑顔になってもらいたい」

1.対象者：訪問入浴の利用者、そしてスタッフ

2.取り組み時間と期間

- ・訪問入浴スタートから現在も継続

3.取り組み方法

- ・何ヶ月も入浴できていなかった利用者より、入浴中ニコニコしながら「このお風呂作った人、ノーベル賞をもらえたかな？こんなに気持ちいいのにと、質問を受けたことがある

その後移動入浴の歴史を調べて、移動入浴の基礎を作り上げた50年前当時の市長、風呂桶屋さんの思いを訪問入浴の利用者、スタッフに伝えてきた。

- ・入浴時の湯の温度、体位で危険性が回避できること。訪問入浴必要性を理解できる研修をする

4.取り組み手順

①当時の市長、風呂桶屋さんの思いを今でも訪問入浴の利用者、スタッフに伝える。

②スタッフの研修

- ・利用者の思い、教えてくれたことを大事にし、私達のやり易い仕事はしない
- ・マニュアルにこだわらずに、その日の利用者にあった入浴を提供する

③利用者アンケートの実施（利用者の希望）

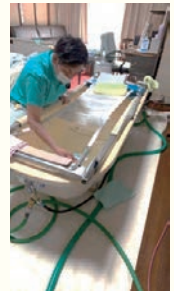
- ・一時的に感染症になっても、夕方の遅い時間帯に変更しないでほしい
- ・同じメンバーで来てほしい
- ・訪問時間を10時とか、決めてほしい

④取組んだ職員数や構成：看護師3人、介護福祉士6人

⑤他事業所との連携：医師、訪問看護、ケアマネとMCS等で連携

⑥今後の課題：BCPを策定し、机上訓練で見えてきたこと

- ・独居の利用者の災害時の対応を、担当者会議等で検討の提案をしていく
- ・災害時の対応の、机上訓練を繰り返し実施することにより、いざという時に備える



結果

- ・同じメンバーで訪問することにより、利用者、家族、スタッフの信頼関係の構築ができ、最後まで安心な入浴が提供できる。
- ・訪問入浴スタート時は、利用者が一時的に感染症MRSA陽性になった場合を含め、感染症の利用者の訪問時間を夕方の最後にしていった。それを、医師会に検討して頂き、どの時間でも訪問できるようにする事でアンケートの結果の改善につながった。

考察

入浴時の事故は、交通事故の約2倍と言われている。

事故のないようにするには…

安全な入浴を提供していく為には、利用者、家族の意向を傾聴すること。

利用者にあった入浴の提供をする為には、研修を更に継続していくこと。



誰一人取り残さない地域を 武蔵野から 立ち直りを支える地域ネットワークづくり

三鷹武蔵野社会福祉士会 立ち直り支部
社会福祉士 蓬田恭子、宮下こず枝、黒木裕子、
村井真理子、橋本英樹、川名佐貴子

【目的】

東京社会福祉士会は、日本更生保護協会が公募した休眠預金活用事業「立ち直りを支える地域支援ネットワーク創出事業」の実行団体として選定され、2023～2025（令和5～7）年度の3年間事業を行っている。

単なる名簿や会議の開催ではなく、刑務所出所者等の具体的な支援を通じ、互いに顔の見える連携関係を創出するのがねらい。実施するのは希望する各支部。三鷹武蔵野社会福祉士会では、「例外なき社会的包摂」を見据え、今年度から取り組み始めた。

本発表はこうした活動を地域の介護福祉・医療関係者に知ってもらい、ネットワークづくりへの参加・協力をお願いするものである。

【社会的な背景】

犯罪件数は減少傾向にあるが、再犯率が増えているところから、政府は2016（平成28）年12月に再犯防止法を制定し、「誰一人取り残さない」社会の実現に向け、国、自治体、民間の連携による再犯防止対策に総合的に取り組んでいる。

2023（令和5年）度からの「第二次再犯防止計画」では、7つの重点課題の一つに、保健医療・福祉サービスの利用の促進をあげており、具体的には、高齢者や障害のある人、薬物依存の問題を抱える人への支援の拡充の必要性を指摘している。我が国で犯罪や非行を犯した人の立ち直りを地域で支えてきたのは、「保護司」である。

社会奉仕の精神に支えられた更生保護の仕組みは世界的にも注目されているが、近年、担い手不足が深刻化している。持続可能な保護司制度の確立を含む民間協力者の活動の促進も再犯防止計画の重点課題の一つとなっている。

【立ち直り支部の2024年度重点目標】

犯罪や非行を過去に犯した方だけでなく、生きづらさを抱える人たちが立ち寄れる居場所づくりを目指す。居場所の対象者を支える地域ネットワークづくりを推進する。

【2024年度事業計画】

三鷹武蔵野保護司会への挨拶と交流、市民ボランティア対象者への挨拶、医療・介護関係への取り組みの周知、リーフレット作成等。7月に市内で活動する保護司3名を講師に招き、学習会を開き、連携の必要性を再確認できた。

【連絡先】

tatinaori@mm-csw.org

事業への理解とご協力をお願いしたい。

『すこやか朝活』の社会的効果

～誰もがWell-Being「しあわせと健康」を実感できる

シンプルで持続可能な朝活動～



地域包括 訪問診療 訪問看護

ゆとりえ在宅介護・地域包括支援センター長 佐藤 朝美

ファミリーケアクリニック吉祥寺 院長 中西 貴大

STAY訪問看護ステーション 看護師 永井裕美子 他

【目的】

武蔵野市東部の医療過疎と交流場所の不足による社会的フレイルの課題に対し、医療者がホストとなり「すこやか朝活」を定期開催。年齢や職業を超えたフラットな交流の場を創出し気軽に相談できる居場所づくりに取り組んだ。コロナ禍で深刻化した孤立を減らすため誰もが無理なく継続参加できる形で地域のつながりと健康維持・Well-Beingを実感できる朝活の社会的効果を紹介する。

【具体的な取り組み】

『すこやか朝活』は毎月第3水曜の7:45～8:45に開催。看護師が健康コンシェルジュとなり、草刈り、豚汁会食、医師の講話、雑談を通じて参加者同士の交流を促進する活動である。

7:45: 軽い運動を兼ねた草刈り。自然に触れ、朝陽を浴びることで心身をリフレッシュさせ、四季の変化を感じながら生活リズムを整えることを目的とする。

8:15: 地域のお母様たち手作りの豚汁を囲んで朝食会。孤食の解消や栄養状態の改善、心温まる交流の場となり、食への関心を高める場となっている。

8:30: 医師による健康講話。季節に合わせた健康法や生活習慣の改善策を紹介し参加者の健康意識向上をサポート。雑談の時間を通じて近況報告や情報交換を促し、コミュニティの深化に繋げている。

8:45: 「いってらっしゃい！」の掛け声で終了。豚汁の準備は前日に地域の方々が行い活動費・材料費は株式会社STAYが出資。参加者の草刈りで庭が整備され、土地活用の好循環を生んでいる。

【取組み結果】

『すこやか朝活』は「運動・食習慣の改善」「健康意識の向上」「地域のつながり強化」「居場所づくり」など、多くの成果を生み、地域の活力増進に寄与している。

【アンケート結果】

運動の充足度: 84.2%が運動不足を感じていたが活動を通じて約50%が運動習慣の改善を実感している。

趣味・文化活動の充足度: 活動前に63.2%が不足を感じていたが、朝活をきっかけに「地域活動を楽しむようになった」という声が増加。食文化への関心も高まっている。

ボランティア・地域活動の充足度: 78.9%が不足を感じていたが、朝活後は「顔見知りが増えた」「多職種と親しくなり情報が増えた」など、21.1%が他の地域活動にも参加するようになった。

リピーターは52.6%、参加動機の上位は①地域交流 94.7%、②豚汁 68.4%、③情報共有 36.8%、④居心地の良さ 26.3%。参加者の84.2%が健康生活への変化を実感し、開催頻度とリピーター意欲は100%。初回10名、年間9回で延べ162名が参加。活動を通じ、運動・食事・交流による健康意識と地域のつながり意識が向上。協力者からは「会話が増え生活が楽しくなった」「介護の悩みに解決策を見つけ心強い」との感想も寄せられている。

【考察】

『すこやか朝活』は住民のコミュニケーションを活性化し健康意識と心身のリフレッシュに効果があり、多職種交流や医療従事者の講話は、健康意識が高まり、社会福祉従事者との交流が相談の機会となっている。月1時間の活動ながら、参加者の意識改革と行動変容につながり、地域の活性化にも寄与している。フレイル予防の観点から「ボランティアと文化活動」は「運動の3倍効果」という研究結果がある。朝活を継続発信することで社会的処方の効果も期待しWell-Being「しあわせと健康」の輪を広げたいと考える。



スタンプラリー

スタンプラリー開催！介護を楽しく学びましょう！

10階（スイングホール）と11階（レインボーサロン）のブースをめぐるスタンプラリーを開催します！

いろいろなブースを訪れて、介護について「知って」「体験して」「学んで」スタンプを集めましょう！

スタンプを集めたら、ゴールの2階（スイングホール）ケアオリンピック受付で素敵な景品をプレゼント！

どなたでも楽しんで参加いただけます。ぜひ、皆様ご参加ください！

※スタンプの設置場所はp36の会場図をご確認ください。



介護職・看護職へのメッセージツリー

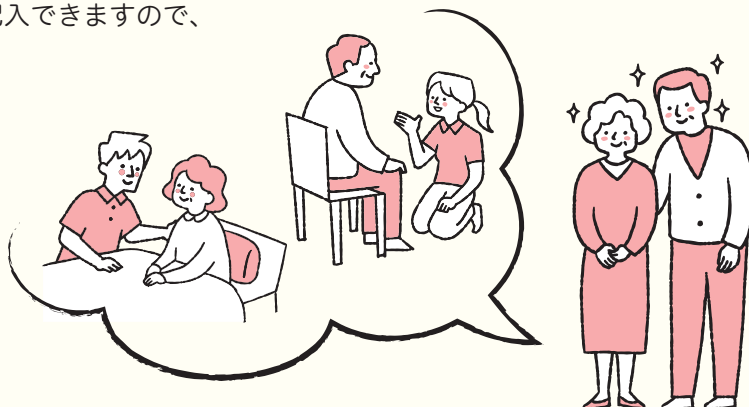
メッセージツリーを作ろう！介護・看護職の皆さんへエールを届けよう！

来場された皆様から、現場で活躍する介護職や看護職の皆さんへ向けた応援メッセージを募集します。

葉っぱ型の付箋にメッセージを書いていただき、それを木の絵に貼り付けて「メッセージツリー」を完成させます！

皆様の温かい言葉を通じて、介護や看護に携わる方々へエールを送りましょう。

メッセージは2階ケアオリンピック受付で記入できますので、ぜひお気軽にご参加ください！





出展・展示コーナー



フロアマップ



スタンプラリー

10F スカイルーム

介護の仕事や次世代機器の紹介、先進事例の展示を行います。福祉に関する仕事に携わる方や興味をお持ちの皆様のご来場をお待ちしています！



◆ケアマネジャーって何をするの？

ケアマネの仕事を知って体験。
ケアリンピック特製ハンドブックをプレゼント！

◆次世代介護機器の体験展示会

無線ナースコール・インカム・見守りカメラ等
ケアプランデータ連携システムの体験。

◆サンキュー動画

市と包括協定を結ぶ杏林大学の学生が事業所に取材をして、働く皆様へのエールをリレー動画にしました。

◆演題発表 ポスターセッション

個性あふれるアイデア満載の取り組みを、ポスター等で発表・展示します。

11F レインボーサロン

介護や健康を知って体験していただける企画が盛りだくさんです。ご家族やお知り合いとお誘いあわせの上、ぜひご参加ください！



◆介護川柳の展示

皆様からお寄せいただいた介護にまつわる、ほっとするエピソードや介護に携わる人の励みになるような、心の温まる川柳を展示します。

◆福祉用具展示

最新の歩行器、車椅子、介護ベッド、スロープが展示されます。

◆キラキラ介護美容・ネイル

「介護美容」をご存知ですか？小さなお子様から御年配の方まで簡単にできます。ぜひ体験してみてください！

◆食べてためせる・介護食コーナー

栄養だけじゃない、味も美味しい介護の「食」。複数の企業が出展します。

◆あなたの血管年齢は何歳？

血管年齢や野菜の摂取量を測定できる機器を使って、健康チェックができます。

◆骨格タイプ別分析

骨格のタイプによって向き不向きな動作が存在する事をご存知ですか？今回は簡単な骨格分析を体感いただけます。

◆キッズヘルパー！子ども介護職体験

体験・体感のコーナーです。介護士認定カードをプレゼント！

ケアマネジャーって何をするの？ ケアマネの仕事紹介・体験

ケアマネジャー（ケアマネ）がどんな仕事をしているかご存知ですか？
介護サービスを利用される方を支援する要となる存在のケアマネ。その仕事の一部を実際に体験できるコーナーです。

現役で活躍中のケアマネによるトークセッションや、具体的にどんな仕事なのか紹介する動画を上映します。

現役ケアマネが作ったケアリピック特製「武蔵野市ケアマネハンドブック」をプレゼント！

お気軽にお越しください。

【協力】武蔵野市居宅介護支援事業者連絡協議会



次世代介護機器の体験展示会

■介護機器

最新の介護機器を展示します。さらに便利に、使いやすくなる新世代の介護機器を体験できますので、ぜひお越しください。

- ・パルモスマートコール（無線ナースコール）
- ・パルモケア2（見守りカメラ）
- ・パルモどっじくん2（徘徊感知器）

【協力】株式会社 iSEED



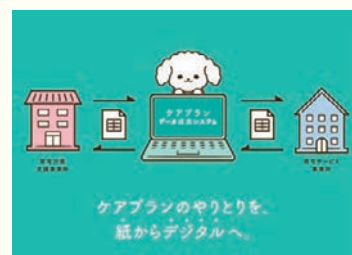
■ケアプランデータ連携システムの体験

介護ソフト「ワイズマン」を用いたケアプランデータ連携システムの使用体験や、説明などを行います。

ケアプランデータ連携システムは、居宅介護支援事業所と介護サービス事業所にとって、業務負担軽減や事務リスク低減等に役立つ強力なツールです。全国の事業所で活用が進んでいますが、皆さまの事業所では導入はお済みですか？

実際にシステムに触れることができる貴重な機会ですので、法人や事業所のご担当者様はぜひお立ち寄りください。

【協力】公益社団法人 国民健康保険中央会
株式会社 ワイズマン



サンキュー動画の上映

高齢者福祉の現場で働く皆様へエールを送り、介護職や看護職を目指す方々に仕事の魅力ややりがいを伝える「サンキュー動画」を上映します。

杏林大学の学生が市内の介護事業所や福祉に関わる団体を訪問し、取材を行って動画を作り上げました。ぜひご覧ください！

【参加団体】

- ・公益社団法人 東京都武蔵野市歯科医師会
- ・シルバーシティ武蔵野
- ・吉祥寺ナーシングホーム在宅介護・地域包括支援センター
- ・吉祥寺ナーシングホーム（特別養護老人ホーム）
- ・吉祥寺ナーシングホーム デイサービスセンター
- ・吉祥寺本町在宅介護・地域包括支援センター
- ・訪問介護ステーションえ〜とす
- ・訪問看護ステーションささえ
- ・特別養護老人ホーム親の家
- ・STAY訪問看護ステーション
- ・NPO グレースケア
- ・デイサービスセンターとらいふ武蔵野
- ・特別養護老人ホームとらいふ武蔵野
- ・武蔵野市役所

【杏林大学】

杏林大学と武蔵野市は令和2年1月に包括連携協定を締結しました。

○杏林大学 総合政策部 木暮健太郎教授より

今回、4度目となるケアリンピック武蔵野への参加となります。学生たちは、取材や撮影はもちろん、動画編集も含めてすべてが初めての経験のなか、チームで力を合わせて課題に取り組みました。このプロジェクトを通じて得られる学生たちの学びには、今後につながる大切なものが秘められていると思います。改めて、みなさまのご協力に感謝いたします。



演題発表 ポスターセッション

様々な介護現場で市民生活を支え続けている専門職達が、武蔵野市の地域として目指す目標に沿った取り組みを紹介し、互いに研鑽し、賞賛するプログラムです。

2階スイングホールでプレゼンテーションが実施され、10階スカイルームでは取り組みをまとめたポスターが展示されます。

【展示内容（敬称略）】

- ボクシングケア倶楽部
地域の健康と絆を育む『ボクシングケア倶楽部』
～運動からはじまる地域ネットワークづくり～
- 株式会社みゆうちゅある
桜堤地区における「ウェルフェア・フェスティバル in 桜堤」の報告
～武蔵野市独自の地域共生社会の姿をめざして～
- 介護老人保健施設 サンセール武蔵野
ご入所者様の意欲を引き出す社会参加活動
～育てた野菜で調理しよう～
- 三鷹武蔵野社会福祉士会 立ち直り支部
誰一人取り残さない地域を武蔵野から
～立ち直りを支える地域ネットワークづくり～
- NPO グレースケア
難病の高齢者と共につくる楽しい武蔵野ライフ
～人工呼吸器で吸引も必要なALSの方、ヘルパー育成と多職種連携でどこまでも行く！～

たべてためせる：介護食コーナー

介護業界における「食」に力を入れている企業が出展します。高齢者でもおいしく気軽に飲むことのできる“とろみ”のついた飲料や、いつでもどこでも誰でも幅広くお使いいただけるやわらか食、栄養バランスを考慮しつつ高齢者の方が喜ぶ味付けのレトルト商品、被災時の健康維持に役立つ安心で美味しい食品、健康成分「カカオポリフェノール」を含んだチョコレートなどを試食できます。より良い明日をつくるためのヒントがありますので、皆さまぜひお越しください。

【協力】株式会社 伊藤園
キューピー 株式会社
ピジョンタヒラ 株式会社
株式会社 ベジタルアドバンス



あなたの血管年齢は何歳？ 健康チェック

健康は大切だけど、ひとりで何かをはじめたり、続けるのは難しいもの。

また、健康増進の取り組み方は人それぞれです。

だから、一人ひとりの健康づくりに寄り添い、いっしょに取り組むことで、地域のみなさまの「健康に向けた前向きな活動」＝「健活」を応援していきます。

血管の丈夫さや日ごろの野菜摂取レベルなどを気軽にチェックできますので、ぜひ足をお運びください。

【協力】明治安田生命保険 相互会社



介護川柳の展示

介護の仕事をしている方やご家族の介護をされている方、介護サービスを利用される方等、多くの方からご応募いただいた川柳を展示します（118首）。

「ほっとするエピソード」や「介護現場で働く人の励みになる」ような、心の温まる川柳をぜひご覧ください。

【市民賞の投票にご協力ください】

来場された方にお気に入りの川柳へ投票いただき、得票数が最も多い川柳を市民賞受賞作品として表彰します。あわせて、実行委員賞1作品と審査委員賞2作品の表彰を行います。

投票は午後1時00分まで受け付け、表彰式は午後3時00分から2階スイングホールで行う予定です。



福祉用具展示

介護に携わる方だけではなく、一般の方やこれから介護に携わる方、福祉用具の利用を検討されている方、そのご家族に向けて、介護に役立つ福祉用具（歩行器、介護ベッド、車椅子）を展示します。

実際に触れて体感できますので、お気軽にお立ち寄りください。

- ・ロボットアシストウォーカー「RT-3」
- ・マルチポジションベッド「マルポジ」
- ・電動アシスト車椅子「ミライト・ウイング」
- ・スロープ「ダンスロープエア―II」

【協力】株式会社 Five Trees 陽だまり福祉用具
フランスベッド株式会社 メディカル田無営業所



キラキラ介護美容・ネイル

【介護美容】という言葉をご存知ですか？

美容を日常で行うことで、笑顔が増えたり生きる活力を出す活動を「介護美容」と呼んでいます。自宅でご過ごされている方が、日常で簡単に取り入れられる美容法として、ペン型ネイルをご紹介します。

介護という枠にとらわれず、小さなお子様からご年配の方までどなたでも楽しんでいただけます。はがして落とせる、簡単なペン型マニキュア！ぜひご体験ください。



【協力】ラヴィーナ 株式会社

骨格タイプ別分析

骨格のタイプによって向き不向きな動作が存在する事をご存知ですか？

今回は簡単な骨格分析を体感いただけます。

腰痛や肩こり、歩き方の癖等、なんでもご相談ください。

【協力】一般社団法人 GIFT 協会



キッズヘルパー！子ども介護職体験

親子で介護にふれてみよう！

子どもたちに介護の仕事を身近に感じてもらえるような体験ブースです。

高齢者の動きを体験できる「高齢者疑似体験」や、実際に車いすを操作する「介護士」体験を通して、人に優しく接する大切さや、介護の魅力を感じることができます。

介護士体験をした方には「キッズライセンスカード」をプレゼント！

記念撮影もできます。是非、親子での参加をお持ちしております。





武蔵野市事業者連絡会紹介

武蔵野市居宅介護支援事業者連絡協議会

武蔵野市居宅介護支援事業者連絡協議会は、会員（ケアマネジャー100名以上）が、介護保険制度における事業の円滑な運営や事業者の資質・サービスの向上を図ることを目的として、研修会や情報交換会等を行っています。また、事業者の枠を超えた多職種連携を図る活動として、武蔵野市・医療・介護・福祉関係団体が開催する各委員会へ当会幹事を派遣し、情報共有と連携を行っています。2025年には団塊の世代が75歳に達し、日本の総人口の2割を占める見込みです。私たちは、支援が必要になった方やそのご家族の生活を支える地域づくりにおいて、ケアプランを作成し、武蔵野市が掲げる『誰もが、いつまでもいきいきと健康に、一人暮らしでも認知症になっても、誰もが住み慣れた地域で生活できる。』を信念に地域の皆さまと協力し、支えあいながら介護予防や重度化防止の支援を行っています。地域の皆さま、会員の皆さま、今後ともよろしくお願い申し上げます。



武蔵野市訪問介護事業者連絡会議

武蔵野市訪問介護事業者連絡会議は、介護保険やその他制度の訪問介護に関わる事業者の連絡会です。月に1度の幹事会で各種の提言や情報共有を行っています。近年は各専門職の連絡会との連携が盛んになり、居宅介護支援事業者連絡協議会との合同研修も開催されました。

訪問介護事業者連絡会は、ケアオリンピック武蔵野2024に積極的に参加し、会より選出した実行委員3名がケアオリンピック武蔵野2024実行委員会で様々な提言を行い、準備してきました。

今後も「広げよう！まちぐるみの支え合い」の精神を大切に市民の皆様とふれあい、地域貢献をしていきます。



武蔵野市訪問看護・訪問リハビリテーション事業者連絡会議

訪問看護師と訪問リハビリの専門職（作業療法士・理学療法士・言語聴覚士）が隔月に会議を開催し、サービス上の問題等についての検討や最新情報の共有を行っています。また武蔵野市との協議と連携、そしてサービスの質向上のための研修も実施しています。その他、毎年9月の防災月間には、事業者連絡会で作成した防災チェックシートを使って防災への意識づけ、そして日々の備え等の確認とアドバイスをしています。チェックシートの中では武蔵野市の避難行動支援でもある「災害時要援護者」についての項目も設け紹介しています。地震や自然災害も多くなっている中、高齢世帯や独居の方も安心して生活出来るよう一緒に考える機会は大切と考えます。これは私たちにとっても対策を見直す機会となっています。会議や市との協議、連携、そして防災チェックなどこれらを通して「住み慣れた地域で自分らしく生活できる」を支えていきます。



武蔵野市通所介護・通所リハビリテーション事業者連絡会議

武蔵野市通所介護・通所リハビリテーション事業者連絡会議は、市内で通所介護サービスや通所リハビリテーションサービスを受けている高齢者等の皆様が、安心して質の高いサービスを受けられるよう、事業者間の連携とサービスの向上を目指して活動しています。

地域の事業所が協力し合い、日々のケアの質の確保や従事者の資質向上に取り組むことで、ご利用者である高齢者の皆様が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう支援しています。

定期的な会議では、介護現場の課題について意見交換を行い、より良いサービス提供に向けて解決策を模索しています。また、各種の研修も主催しています。

誰もが必要な時に適切な介護サービスを受けられる地域社会の実現を目指して、事業者と行政が協力し合い活動している連絡会です。



武蔵野市介護老人福祉施設長会

武蔵野市は介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）が7カ所あります。各施設の施設長が協議事項、報告事項、情報提供など定期的に会議を開催しています。

武蔵野市内介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）

施設名	住所	電話番号	施設種類
吉祥寺ナーシングホーム	〒180-0001 武蔵野市吉祥寺北町2-9-2	0422-20-0869	多床室・従来型個室
ゆとりえ	〒180-0003 武蔵野市吉祥寺南町4-25-5	0422-72-0311	多床室・従来型個室
武蔵野館	〒180-0014 武蔵野市関前2-16-5	0422-36-7700	多床室・従来型個室
親の家	〒180-0011 武蔵野市八幡町3-4-18	0422-55-0507	多床室・従来型個室
ケアコート武蔵野	〒180-0023 武蔵野市境南町5-10-7	0422-39-0390	ユニット型個室
さくらえん	〒180-0021 武蔵野市桜堤2-8-31	0422-51-5550	ユニット型個室
とらいふ武蔵野	〒180-0014 武蔵野市関前1-2-20	0422-38-5221	ユニット型個室



武蔵野市PT・OT・ST協議会

武蔵野市PT・OT・ST協議会は、市内の理学療法士、作業療法士、言語聴覚士で組織されたりハビリ専門職の団体です。活動内容は、研修会を開催して、我々の質の向上を図る事。専門知識を生かした市民の皆様や他分野への講習などを行って、お互いの顔の見える関係作りを目指して活動しています。

当協議会も設立より8年が経過しました。地域での活動への参加機会も増え、地域貢献に寄与する組織に成長してきたところでしたが、新型コロナウイルスの流行により著しく活動が制限された状態となっております。

今年度は、対面での活動も再開していく予定ですので、より市民の皆様にとって有益な活動が出来るよう取り組んで参ります。

今後とも武蔵野市PT・OT・ST協議会を宜しくお願い致します。



武蔵野市福祉用具事業者連絡会議

介護保険制度の福祉用具貸与・購入に関わる事業者の連絡会です。

現場での問題点などを、各事業者がどう取り組んで改善しているか、それぞれが案を持ち寄り、全体で共有し、最善の解決策を目指し、協議しています。市内の催し物にも積極的に協力しています。



・ご希望の生活は？
・お困りごとは？
・お身体の状況は？
・ご自宅の環境は？
などを踏まえて、適切な福祉用具を選定致します。

計画書

モニタリング報告書

各事業者は常に利用される方の立場に立ったサービスの提供に努め、適正な指定福祉用具を提供し、より良い日常生活を送っていただけるよう支援していくことを目的としています。また、それぞれの専門分野を持ち、日々研鑽を積むことでより良いサービス提供ができるよう常に心掛けています。

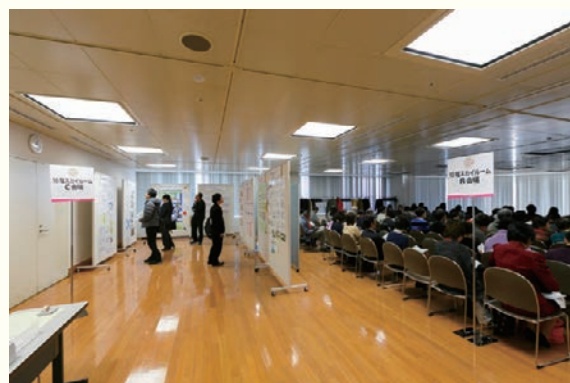




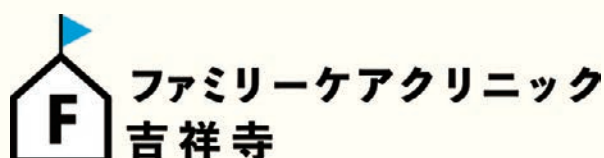
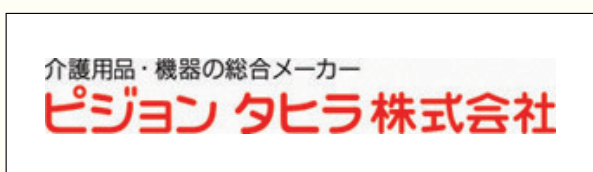
ケアリンピック武蔵野のあゆみ

ケアリンピック武蔵野は平成27年から開催しています。

第1回	2015年（平成27年）12月12日	
第2回	2016年（平成28年）11月26日	
第3回	2017年（平成29年）11月18日	
第4回	2018年（平成30年）12月1日	
第5回	2019年（令和元年）11月23日	
	2020年（令和2年）	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
第6回	2021年（令和3年）11月27日	オンライン中継（動画配信）で開催
第7回	2022年（令和4年）11月19日	事前申込による会場とオンライン配信のハイブリッドで開催
第8回	2023年（令和5年）12月2日	ケアリンピック武蔵野専用ホームページ作成 アーカイブとして後日視聴を可能とした
第9回	2024年（令和6年）11月30日	構成劇とシンポジウムを実施 会場フロアを増やして企画を拡充し、規模を拡大

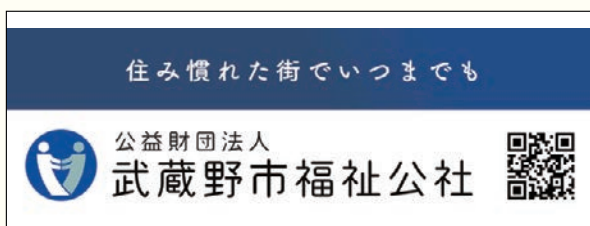
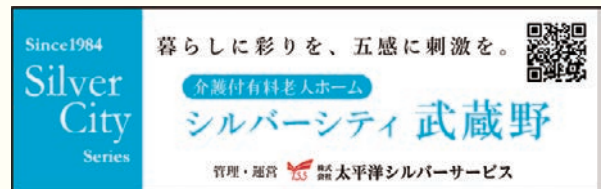


協賛1





協賛2



陽だまり 福祉用具

